

編集後記

今年もこうして『哲学の探求』を皆様にお届けできますことは、編集担当の役を戴いた私にとって何よりの喜びであります。昨号では一執筆者、一投稿者に過ぎなかった自分が本誌の編集に関わるとは、思えば不思議なものですが、しかしお世話になりっぱなしのフォーラムに少しは恩返しができたかどうかと、そのことも嬉しく思われる次第です。

本号は電子媒体化を経て二号目ということで、編集体制や編集の方法は今も変化の途上にあります。本号執筆者の皆様にはそのこともありご迷惑をおかけした面もあったかと思いますが、揃って快くご協力戴きましたことをお礼申し上げます。また勿論、編集・発行に携わって下さった運営委員の同僚達、また編集協力者の皆様のご尽力は感謝に堪えません。そして何より、恐らくは最も今号編集作業で活躍されたであろう相方の編集担当、高取さんに感謝をお伝えたく思います。足を引っ張るばかりの私ではありましたが、共に仕事をすることができよかったと心から思います。

結果として生まれた本号は、意欲に満ちた論文が並ぶ力作揃いとなりました。例年に比べ発行が一月ほど遅れることにはなってしまいましたが、しかしそれを補って余りある内容があると自負しております。そうした論文の数々が一人でも多くの方の眼に留まり、これからの哲学の発展に寄与しえたならば、編集担当として、また哲学を学ぶ一人として、これに勝る喜びはありません。

『哲学の探求』編集担当 藤野 幸彦

編集作業のうち、私の担当した部分において遅滞が生じてしまった結果、本号の発行が遅延してしまいました。レクチャーの先生をはじめとする執筆者の方々にはご迷惑をおかけしてしまい、たいへん申し訳ございませんでした。外部からの編集協力者の方々、そして他の運営委員のみなさまにも、重ね

てお詫び申し上げます。

編集作業は私自身にとっては勉強になることばかりでした。しかし実際のところ、みなさまへのご負担と引き換えに私ばかり一方的に得るものがあったのではないかと恐れるものであります。

ともあれ、執筆者、編集協力者、運営委員のみなさまには、(上に述べたお詫びのみならず)心からお礼の言葉を述べさせて頂きたく思います。本号完成のためにご協力いただき、本当にありがとうございました。そして最後に(しかももちろん最小にではなく)、もう一人の編集担当である藤野さんに、この場を借りて感謝の気持ちを伝えさせて頂ければ嬉しいです。私の作業が遅れることで藤野さんのほうにばかりしわ寄せが行ってしまい、誠に申し訳なかったのですが、寛容にも嫌な顔一つせず(と言っても、編集作業は全てメールとSkypeを介して行われたので本当のところはわからないのですが)ともに作業して頂いたこと、感謝の念に堪えません。

『哲学の探求』編集担当 高取 正大